

平成30年度 第4学年 授業改善プラン

教科	観 点	課 題	指導の視点	具体的な手立て・改善策
国語	国語への関心・意欲・態度	・漢字の書きの定着が十分でない。	<ul style="list-style-type: none"> ・熟語や文などのまとまりで新出漢字の指導を行い、多くの例に触れさせることで定着を図る。 ・「話し方」「聞き方」のポイントを意識させながら話し合い活動を多く取り入れて指導する。 ・文章を書く能力を身に付けさせるため、構成をしっかり指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典は常に学校に置いておき、授業中に辞書を引く機会を多く設定し、語彙の拡充を図る。 ・文などのまとまりで練習する習慣を身に付けさせ、新出漢字を熟語で定着できるようにする。 ・週に一度漢字ミニテストで定着状況を把握し、補充テストを繰り返し行うことで、一人一人の習熟度を高めていく。 ・説明文で学んだ構成と関連付け、「はじめ」「中」「おわり」に注目して構成メモを作らせる。書き方の基本の確認してから作文を書かせる。
	話す・聞く能力	・大事なことを押さえて話したり、聞くことが十分でない。		
	書く能力	・文と文のつながりを考えて、文章にすることが苦手である。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字を使うように指導する。 ・言葉への興味を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・送り仮名なども意識して、作文や短文を書くときに既習漢字を使うように声かけをする。 ・言語事項の指導では辞書を活用させ、言葉への興味を広げる。
	読む能力			
	言語についての知識・理解・技能			
	全国学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて			
社会	社会的事象への関心・意欲・態度	・自分の生活と関連して学習を進めてきたが、学習した後に、自分の生活と関連する児童が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことが生活の中と関連していることを意識できるようにする。 ・資料やグラフを工夫して提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まとめて終わり」という意識でなく、まとめたことが使えると感じられるようにする。学習が終わった後も、様々な機会話題に取り上げるようにする。 ・どんな資料が必要かを考えさせたくて、資料やグラフを提示する。また、複数の資料やグラフを提示することで必要な情報を選ぶ機会を確保する。
	社会的な思考・判断・表現	・適切な資料やグラフを選んで読み取ることができない。		
	観察・資料活用の技能・表現	・問題の場面を図を使って表せない児童がいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を適切に活用して、区市町村の位置や都道府県の位置についての理解の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳に慣れ親しむ時間を確保し、地図上での位置と区市町村名、都道府県名を一致できるようにする。
	社会的事象についての知識・理解			
	児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて			
算数	算数への関心・意欲・態度	・3位数×2位数の乗法など、計算の技能が十分でない児童がいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・反復練習により、計算の技能を身に付けさせる。 ・長さや重さの単位や、時刻と時間についての知識・理解を深め、技能を高める。 ・問題の場面を図で表す方法を知り、図を活用して問題の場面を表せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算や、単位換算、時刻と時間などのミニプリントを用意し、朝学習や授業の初めなどに、実施する。東京ベーシックドリルも活用し、定着を図る。 ・問題場面を線分図を使って表すなどの活動を多く取り入れ、児童に発表させる。
	数学的な考え方	・長さや重さの単位換算や、時刻と時間の問題が苦手な傾向がある。		
	数量や図形についての技能	・問題の場面を図を使って表せない児童がいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算の筆算について、確実な定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1位数で割る計算を繰り返し練習することで、2位数で割る計算の学習の際にスムーズに取り組めるようにする。
	数量や図形についての知識・理解			
	全国学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて			
理科	自然事象への関心・意欲・態度	・実験や観察は意欲的に行うが、その結果から考えることが苦手な児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・何のために観察や実験をするのかを明確にし、観察結果や実験結果から導き出されることをまとめる。 ・相違点や共通点といった視点を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習の流れを重視し、特に、「考察」「まとめ」の部分があることを意識させる。始めはモデルを提示し、「考察」「まとめ」の仕方を定着させる。 ・一つの植物や自然現象を継続して観察する際に、定点観察をして相違点・共通点に着目させて比較させる。
	科学的な思考・表現	・自然現象をいくつかの視点で観察することに慣れていない。		
	観察・実験の技能・表現	・器楽では、リコーダーの基礎的な技能の習得に個人差がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・磁石や電気の学習では、確実な定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物の性質や特徴は、実験をしたり、性質を活用したおもちゃ作りをしたりして、実感の伴った理解ができるようにする。
	自然事象についての知識・理解			
	児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて			
音楽	音楽への関心・意欲・態度	・歌唱では、歌詞の様子を思い浮かべることができたが、そこから楽曲に合った表現の工夫につながっていない。また、課題に直面した時の解決手段を自分たちで考えることができない。	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞や朗読によって楽曲のよさやおもしろさを十分に感じ取らせる。どのように歌いたいのか、どのように歌うべきか思いをもたせる働きかけをする。 ・姿勢や構え方、タンギング、運指、奏法について確かな定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽室のルールを確認する。授業に気持ちが向くような課題提示を工夫する。 ・リズム打ちや階名唱をさせるなど、十分に楽曲のよさやおもしろさを体得させ、自分の思いに沿った表現を工夫させる。 ・正しい姿勢を意識させ、リコーダーを演奏する時のタンギングや息の使い方を指導していくようにする。
	音楽表現の創意工夫			
	音楽表現の技能	・器楽では、リコーダーの基礎的な技能の習得に個人差がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に授業の内容を把握しているか確認する必要がある。 ・授業の規律は守れるので、「自分たちで授業をつくる意識」をさらに高めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあては提示するだけでなく、一緒にめあてを確認したり考えたりする場面をつくる。 ・授業の失敗例を教師が示して、なぜ失敗したのか考えたり、授業の成功例を見せてなぜ上手にできたのかみんなで考える場面をつくる。
	鑑賞の能力			
	児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて			
図画工作	造形への関心・意欲・態度	・話を聞く態度はとてよいが、個別に見ると授業の内容が分かっていないこともある。作品作りに関しては丁寧な作品づくりを心掛けている児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に授業の内容を把握しているか確認する必要がある。 ・授業の規律は守れるので、「自分たちで授業をつくる意識」をさらに高めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあては提示するだけでなく、一緒にめあてを確認したり考えたりする場面をつくる。 ・授業の失敗例を教師が示して、なぜ失敗したのか考えたり、授業の成功例を見せてなぜ上手にできたのかみんなで考える場面をつくる。
	発想や構想の能力			
	創造的な技能	・体全体を連動させた動きが苦手な児童がいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・体幹を鍛える。 ・技能を高め、意欲的に活動できるようにする。 ・ルールを簡単なものにし、分かりやすく図で説明したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コア・トレーニングや体づくり運動を通して、体の多様な動きを身に付けさせる。 ・学習カードや映像資料で動きのポイントを示す。 ・友達の動きのよさやそこから学んだコツを自分の動きに生かせるように共有する時間をつくる。 ・ホワイトボードを活用し、授業の流れやルールを視覚的に示す。
	鑑賞の能力			
	児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて			
体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度	・体全体を連動させた動きが苦手な児童がいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・体幹を鍛える。 ・技能を高め、意欲的に活動できるようにする。 ・ルールを簡単なものにし、分かりやすく図で説明したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コア・トレーニングや体づくり運動を通して、体の多様な動きを身に付けさせる。 ・学習カードや映像資料で動きのポイントを示す。 ・友達の動きのよさやそこから学んだコツを自分の動きに生かせるように共有する時間をつくる。 ・ホワイトボードを活用し、授業の流れやルールを視覚的に示す。
	運動や健康・安全についての思考・判断	・器械運動やボールゲームの用具の扱いなどの技能面での個人差が大きい。		
	運動の技能	・ルールが理解できずに違うことをしてしまう児童がいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・体幹を鍛える。 ・技能を高め、意欲的に活動できるようにする。 ・ルールを簡単なものにし、分かりやすく図で説明したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コア・トレーニングや体づくり運動を通して、体の多様な動きを身に付けさせる。 ・学習カードや映像資料で動きのポイントを示す。 ・友達の動きのよさやそこから学んだコツを自分の動きに生かせるように共有する時間をつくる。 ・ホワイトボードを活用し、授業の流れやルールを視覚的に示す。
	健康・安全についての知識・理解			